

# 女夫石遺跡発掘調査速報 No.5

あまりの暑さに、速報作成前に頭がブルブル回っていました。速報を待ちわびていた方がいたらごめんなさい。

今回は、No.4で紹介したあの「黒い土」の層から発掘される遺物の紹介の続きです。発掘されるものは縄文土器たちばかりではないのです。穂坂の弥生時代から平安時代の様子を知る手がかりも発掘されています。

ナゾの多い「穂坂牧」の実像に迫るような発見を望みながら発掘をしている今日この頃です。



縄文土器とはぜんぜん違うね。薄いし、粘土に石ころもあまり入っていないみたいだし、それにこんな形の土器は縄文時代にはみよね。平安時代と縄文時代では器の形が違うんだね。縄文土器と違って、模様もないしね。ちなみにも、土師器(はじき)って呼ぶらしいよ。平安時代にはこの他に須恵器(すえき)っていう灰色の土器(瓦みだいな感じ)のものもあるんだってさ！

マ キ: 本当だ! 粘土も縄文土器と違って、砂があまり混ざっていないし、それに赤くて薄い土器だね。縄文時代のものではなさそうだね。

スリ: 土師器(はじき)っていうそうだよ。平安時代の土器らしいよ。

マ キ: じゃあ、この黒い土は平安時代の頃に堆積したものなんだね。でも何で縄文時代の土器も混ざっているんだろう?

スリ: 平安時代の頃にこの場所で生活する時に土を掘り起こしたりしたからだろうね。竪穴住居を掘ったり、畑を作ったり・いろいろなことをきつとしたから、下に埋まっていた縄文土器が上に上がってきたんだよ。

マ キ: う〜ん。そうかもしれないね。でも黒い土でもなんだか感じがちがう様な気がするけど……。確か、文化ホールの西側にある三宮地(さんぐうじ)遺跡でも黒い土があったような……。もしかして、黒い土はいろいろな時代に分けることが出来るかもしれないんじゃないかな?

スリ: いわれてみれば、そうだね。「黒い土」のナゾが今回の発掘調査で分かるといひね。

マ キ: あれ? 発掘現場で工事現場なんかでよく見る黄色い機械を作業員さんが使っているよ。何しているんだろうね。(つづく)

そーいえば、先週の土曜日の「ともちゃんちの5時」で韭崎の穴山町にある宿尻第二遺跡(しゅくじりだいにいせき)から出土した桃の種(掬うて炭になったもの)が放映されたんだよ。化石という説明だったらしいけど、石にはなっていないので化石ではなくて自然遺物(しぜんいぶつ)といます。

弥生時代から古墳時代の頃のもので、当時「桃」はとても神聖な食べ物だったようです。遺跡では一緒にクルミも出てきました。クルミも漢字で書くと「胡桃」で「桃」の字が入っています。やっぱり神聖な食べ物の一つだったのかな?

遺跡からは石器や土器などだけでなく、炭になったものも発見されます。それを調べることで当時の食生活の一端が分かるときもあります。

